



Information from JMRC-Shikoku

☆☆☆ JMRC四国からの公示・お知らせ ☆☆☆



ジムカーナ主催者
ジムカーナ参加選手 各位

JMRC 四国ジムカーナ部会
2007年 2月21日

車両重量計測の実施について

四国地区では下記の方法により車両重量の測定を行い、車両規則違反の合否判定の一部とします。

1. 測定器具

- ・ JMRC 四国が用意した計測機器を使用します。
但し、故障等により機器が使用できない場合には代替の測定機器になる場合があります。

2. 測定場所 (諸事情により変更する場合があります)

- ・ モーターランドたぢかわ.....仮設トイレ前付近
- ・ 瀬戸内海サーキット.....ピット建物の最西側付近(売店の反対側)
- ・ 徳島カートランド.....シリーズ第1戦開催時までに決定し、競技会当日に発表する。

3. 測定条件・測定方法・判定基準

- ・ あくまで『出走状態』で測定します。測定時の燃料・水・オイル等の積載量は問いません。
また、積載物の有無についても不問としますが、固定方法に注意して下さい。
- ・ 『出走直前の状態』または『出走直後の状態』から、ドライバーはヘルメットなどの装備品を、
装着したまま降車し、その状態を計測します。
- ・ 測定の結果、規定重量から1gでも軽いと判定された場合には、車両規定違反となります。
基準重量については、JAF発表の資料(JAFスポーツ等)を参照して下さい。
- ・ この測定条件、測定方法及び判定基準に対する異議・抗議は認められません。

4. 測定対象者

- ・ 原則として、再車検時に各クラス上位入賞者を対象に測定します。
- ・ 当日の会場において、主催者が任意に対象者を指名し、抜き打ち測定を行う場合があります。
もちろん、この測定も車両規定違反の対象となります。
- ・ 選手側から主催者に対して、他の選手の抜き打ち測定を要求したり、指名された対象者が測定
を拒否する事はできません。

5. 測定サービス

- ・ 以下の方法により車両重量を事前に測定する事ができます。
- ・ このサービスによって測定した重量は公式な数値ではありません。『目安』と考えて下さい。
競技会当日に主催者が行う公式計量による数値を公式重量として扱います。
- ・ 費用は測定1回につき、¥2,000です。各測定場所にて担当者や各社に支払って下さい。

a. 競技会当日

- ・ 競技会当日の会場において、主催者の行う公式計量に影響のない範囲で、各自の車両重量を測定

する事ができます。(競技会によっては測定サービスのない場合もあります)

- ・ 測定作業は全て選手自身で行って頂きます。主催者や測定担当者は、機器の誤動作や破損を防ぐ為に、操作指導及び作業監視は行いますが、測定作業や作業の補助は行いません。
- ・ 実際の作業では、測定機器の上に車両を人力で押し上げる必要がありますので、最低でも2～3人が必要と思われます。仲間同士で協力して測定して下さい。

b . 競技会当日以外

- ・ 下記の各社の御協力により、競技会当日以外でも重量計測をする事が可能です。全て予約が必要です。各自で直接連絡を取って下さい。
- ・ (徳島市) モーティブ.....088 - 636 - 0099 (担当:天満)
- ・ (松山市) RSK.....089 - 963 - 3884 (担当:小清水)
- ・ (松山市) 山本自動車工業.....089 - 924 - 0220 (担当:山本)
- ・ (高知市) ワークスオザキ.....088 - 828 - 4858 (担当:尾崎)

c . その他

- ・ 任意で開催されている練習会等に、出張計測する場合があります。
- ・ 測定時間帯などの制限がありますので、詳細は各練習会等の主催者にお問い合わせ下さい。

6 . その他の注意事項

- ・ この計測方法は、四国内のイベントのみに適用されます。他地区の競技会や全日本などに遠征の予定の方は、それぞれの競技会で計測方法が違う場合がありますので、各自で情報を収集して下さい。

- 以上 -



Information from JMRC-Shikoku

☆☆☆ JMRC四国からの公示・お知らせ ☆☆☆



ジムカーナ主催者 各位
ジムカーナ参加選手

JMRC 四国ジムカーナ部会
2007年 2月21日

車両重量計測機器取扱要綱

この計測機器は、繊細かつ微妙な測定器具です。

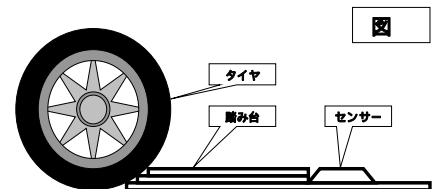
下記の操作説明や注意事項をよく読み、破損・故障等のない様に注意して使用して下さい。

計測手順

踏み台の直前で停車する。

踏み台をタイヤに接触する様に設置し、センサーを図の位置にセットする。(図 参照)

センサーと踏み台の隙間に小石などが挟まっていない事を確認しておく事。

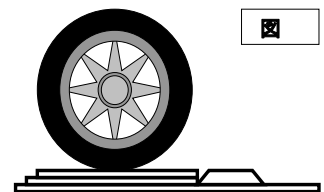


エンジンの動力で踏み台に載る。(図 の位置)

エンジンを停止し降車する。

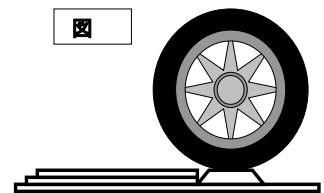
表示器が全て『0』を表示している事を確認する。

0以外の時には、『ZEROボタン』(白)を押す。



人力で車を押して、センサーの上に載せる。(図 の位置)

数秒で表示が安定するので、読み取る。



人力で車を前(または後)に押して、センサーから降ろす。

機器取扱上の注意事項

1. 車両の乗降時に接続ケーブルを踏まない様に注意して下さい。断線の原因となります。
2. 計測機器は、その性格上、水濡れや泥汚れを嫌います。
特に雨天時に使用の際には、次の項目に注意して下さい。
 - ・ 表示部は特に水濡れ厳禁です。雨水等がかからない様に注意して下さい。
 - ・ 使用后、センサー部及び接続ケーブルに付いた水分や汚れを掃除してから後片付けして下さい。